あいおいニッセイ同和損保
ザ・フェニックスホール 情報誌

THE PHOENIX HALL

Salon

Vol.130 2021年1月 新春号

ホール4F壁画「黄色いブーケとヴァイオリン」

CONTENTS

01 Prime Interview — 中川賢一
03 Phoenix Presents — 2021年度 ティータイムコンサート
土と装飾:郷古廉&加藤洋之 デュオリサイタル
フォルクハルト・シュトイデ ヴァイオリンリサイタル
06 Pick Up 中恵菜ヴィオラリサイタル
07 Essay de say — アストル・ピアソラについて 三浦一馬

あいおいニッセイ同和損保

縦横無尽にライヒの音楽を奏でる
中川賢一さん

©Shuhei NEZU

ピアニストの中川賢一を軸に編まれた、スティーヴ・ライヒ（1936-）の作品だけで構成された一夜。ライヒの作品は一般的にミニマル・ミュージックとして分類され、「限られた素材でパターン化された音型やリズムを繰り返す音楽」と説明されるが、実際の鳴り響きは曲が書かれた年代で相当に違っている。今回は1967年に書かれた《ピアノ・フェイズ》がもっとも古く、2007年の作品である《ダブル・セクステット》との間に、一人で演奏する「カウンターポイント」のシリーズが並んだ（編曲が2011年のものがある）。「《ダブル・セクステット》をミニマル・ミュージックとは感じません。同じ音型も少しは繰り返されますが、ドラマ化されたロックです」と中川は言う。「とにかく難しいことを考えずに聴いてください。すっと心に入ってくる音楽です」というライヒの多様な音楽を浴びるように楽しみたい。《ダブル・セクステット》用の録音が行われた8月に、中川から話を聞いた。

（取材・文：小味渕彦之／音楽学、音楽評論）

中川賢一（なかがわ・けんいち／ピアノ）

桐朋学園大学音楽学部でピアノと指揮を学び、卒業後、ベルギーのアントワープ音楽院ピアノ科を首席修了。在学中にフォルテピアノ、チェンバロも習得。1997年オランダのガウデアムス国際現代音楽コンクール第3位。帰国後は、ソロ、室内楽、指揮で活躍する他、国内外の様々な音楽祭に出演。武生国際音楽際には2001年からほぼ毎年参加。NHK-FM、NHKクラシック倶楽部などに度々出演、新曲初演多数。ダンスや朗読など他分野とのコラボレーションも活発。ピアノ演奏とトークを交えたアナリーゼ等も展開。クラングフォルムウィーン、ムジークファブリーク、アンサンブルルシェルシュ、アルテルエゴなどを指揮、アルディッティカルテットやバーバラ・ハンニガン、イエルーン・ベルワルツ等と共演する他、アンサンブ・モデルンとのコラボレーションは話題を呼んだ。現代音楽アンサンブル「アンサンブル・ノマド」のピアニスト、指揮者。お茶の水女子大学、桐朋学園大学音楽学部非常勤講師。http://www.nakagawakenichi.jp

「ミニマル音楽の軌跡〜オール・ライヒ・プログラム〜」

2021年2月27日（土）16時開演　指定席
一般3,500円　友の会会員3,150円
学生1,000円(限定数、25歳以下)

■チケットのお求め、お問い合わせ
ザ・フェニックスホールチケットセンター
06-6363-7999（平日10時〜17時、土日祝休）

■プログラム　スティーヴ・ライヒ：ピアノ・フェイズ（1967）
ヴァーモント・カウンターポイント（1982）
エレクトリック・カウンターポイント（1987）
ピアノ・カウンターポイント（1973/2011）
ダブル・セクステット（2007）（予定）

「ドラマ化されたロック」浴びるように楽しみたい

Nakagawa Ken'ichi

同時代の音楽、そして、ライヒの作品に興味を持ったきっかけを教えてください。

元々は小学生の時です。作曲家の近藤譲さんが当時司会をされていた『現代の音楽』というFMの番組を聴いていました。子供って、おばけが好きなのと同じで、怖いものに惹きつけられるんです。それからです。ライヒの作品は大学(桐朋学園大学)に入って、学園祭で《ピアノ・フェイズ》を2年ぐらい連続してやったんですよ。最初は「あんなの演奏できるのか?」って思ったんですけど、なせばなるで、だんだんやってるうちにできてきたんですね。自分として一番大きかったのは留学したベルギーのアントワープに「Champ d'Action」というアンサンブルがあるんですが、そこで《エイト・ラインズ》を弾いたんです(1998年1月30日)。すごく鮮烈で、とにかく難しいんです。でも、あまりにもいい曲だなと思いました。同じ時期にイクトゥスというアンサンブルで《テヒリーム》を聴いて、これには本当に感動して、ぜひやってみたいと思ったのがライヒの原体験です。

今回もプログラムに《ピアノ・フェイズ》が入ってますね。本来は2台のピアノで演奏する作品ですが、ピアニストは中川さんお一人です。どうやって演奏するんですか?

ライヒに怒られるかもしれませんが、僕が回数を決めて録音したものと共演します。実はこうした一人バージョンは何度もやっていて、アウトリーチ活動の中でも、その一部だけを弾いてみたりしています。ライヒの作品ってシンプルなものが原点で、自然現象なんだけど、計画的な規則性があることが単純に美しい。感情が入っていないのに、そこに感動するのはおもしろいです。異様で神秘的でわからないものって、人間って求めますよね。子供の頃に機械音が「グォーン、グォーン」と聞こえてきた時に、気持ち悪いんだけど、逆に気持ちよかった。人間の美しいものへの反動があるように思います。ライヒが審査員だった2008年の武満徹作曲賞の本選の演奏会で、僕がアンサンブル・ノマドを指揮していたので、ライヒ本人に会うことができました。これはうれしかったです。ライヒって哲学的なところもあるんですが、音楽に対してフレンドリーな、ライブな音楽の良さを求めてるんだなと感じました。人間的に温かい人だなと思いました。

スティーヴ・ライヒって誰なんだという人もいると思うんですが、ライヒの音楽ってどういうものなんでしょうか。

単純に和音の選び方がカッコいいんですよ。ポップスとかジャズを好きな人も、そう思える音の選び方をしている。決してスタイリッシュに創ろうとしていないはずなんだけど、音楽のすべてがお洒落。すぐに身体に入ってくるリズムと和音でありながら、実はとっても深い音楽で、宇宙とか自然の摂理、輪廻までも感じます。それを親しみやすい形で作っていて、最初の1秒からすぐに入り込める。今は物理的に「密」になっちゃいけない世の中だけど、ライヒの音楽と心ではすぐに「密」になることができるんです。もちろん作曲家だから恣意的なものは入ってくるんだけど、ライヒはこれしかないというところまで削ぎ落としてくる。たとえば《ピアノ・フェイズ》のような曲は、いくらでも書けると思いますけど、これ1曲しかない。同じアイディアを二度と使わないというのは、自信があるわけだし、心から出てきたものだと思います。ライヒの音楽は「まったく媚びていない」んです。受けをねらって書いたら、ああはならないでしょうね。

《ダブル・セクステット》の魅力はなんでしょうか。

ずばり「ロック」、つまり「ビート」です。それを、コンテンポラリーの室内楽の基本形とも言える編成を2つ重ねてやるところです。今回6人のバージョンでやりますが、タイトなグルーヴでいける感覚がある。攻めのアンサンブルですね。これが12人だとシンフォニックになる。こちらは逆に包み込むようなアンサンブルになります。

今回のように6人でやる場合は、ご自分たちの録音との共演になります。

面白さは、普通はない自分たちとの共演ということ。現代だからこそできるやり方ですね。その自分と演奏するところが面白いんですが、逆にクセが全部見える。「この野郎、自分!」っていうのが発見ですね。みんな自分自身の演奏を見つめ直すいい機会になると思います。同じ人同士の組み合わせが6つあるというドッペルゲンガーみたいで、変な感じです。

オール・ライヒで構成された演奏会って、意外に珍しいですね。

2つ理由があって、まずは単純に難しい。あとは、昔の曲をやるよりも、現代音楽のコンサートだと新作が求められるからかもしれませんね。でも本当は現代音楽じゃないんですよ。たとえば《ピアノ・フェイズ》は1967年作曲だから、すでに生まれて50年以上経っているわけです。ベートーヴェンの「運命交響曲」が1808年作曲で、ワーグナーの楽劇「ニュルンベルクのマイスタージンガー」が1868年完成なんですよ。「マイスタージンガー」ができた時に、「運命」は現代音楽って呼ばなかったはずですよね。これだと《ピアノ・フェイズ》を延々と「現代音楽」って呼び続けるのかもしれない。たとえば知らない人にライヒを聴かせたら、きっと「現代音楽」とは呼ばないですよね。プログレシヴ・ロックの横にライヒがあったっておかしくない。残念ながら、どの時代もアートを日常に持ってきたいという意識はあるんだけど、特別な存在のままで広がらないですね。でも、ビル・エヴァンスだって、オスカー・ピーターソンだって、今、街のBGMでは普通です。ライヒも、ちょっとでも近づけたらなぁ。ライヒの作品は比較的初期のものばかり知られているから、メロディがないと言われてしまいます。垣根を自分たちで作ってしまってるんですよ。とにかく難しいことを考えずに聴いてください。すっと心に入ってくる音楽です。

今回は土曜日の発売となります。

ザ・フェニックスホール 友の会優先予約
1月16日(土)
10:00 受付開始

E-PHX(イーフェニックス)優先予約
1月18日(月)
10:00 受付開始

一般発売
1月19日(火)
10:00
インターネット予約による
お申込みは1月20日(水)10:00から!

2021年度 ティータイムコンサートシリーズ [148]〜[154]

友の会会員年間通し券なら、1公演約3,000円！チケットご予約時にもご入会いただけます

金曜の午後2時スタート。都心に立地し、抜群の交通アクセスで関西一円から多くの皆様においでいただけるホールの特性を生かし、1995年のホール開設以来、お楽しみいただいています。一流のアーティストを起用し、昼間の気軽な雰囲気で、夜の演奏会にも劣らぬ上質な「生」の音楽をお届けいたします。
2021年度は7公演をラインナップ。期待の若手やウィーン・フィルの首席奏者たち、そして円熟されたベテラン奏者など様々な室内楽をご用意しました。お得な年間通し券で、ザ・フェニックスホールが自信をもって贈る「スペシャル・マチネ」をどうぞご堪能ください。

Friday 2 o'clock

いずれも金曜日
14:00開演／13:30開場
指定席

年間通し券 全7公演 [148]〜[154]
一般 ¥25,000
友の会会員(お一人様2席まで) **¥21,000**
※年間通し券・学生券は当ホールチケットセンターのみのお取り扱い
※1公演毎でのご購入も可

第148回
4/23 金
一般4,000円(友の会会員3,600円)　学生(25歳以下／限定数)1,000円

質実剛健の本格派ピアノトリオ
トリオ・アコード

■出演　白井圭(ヴァイオリン)、門脇大樹(チェロ)、津田裕也(ピアノ)
■曲目　ベートーヴェン:ピアノ三重奏曲 第5番 ニ長調「幽霊」op.70-1　ほか(予定)

東京藝術大学の同級生3人が集い、2003年に結成。それぞれが欧州への留学期間を経て、現在ヴァイオリンの白井圭はNHK交響楽団ゲスト・コンサートマスター、チェロの門脇大樹は神奈川フィルハーモニー管弦楽団首席奏者、ピアノの津田裕也は東京藝術大学准教授を務めています。個々がキャリアを着実に磨きつつ、それがトリオの活動に確実に反映されることで、彼らならではの濃密な音楽が創造されるのです。プログラムには、レコード芸術誌で特選盤に選ばれたCD(このCDは本当に素晴らしいです)に収録されているベートーヴェンのピアノ三重奏曲「幽霊」を挨拶代わりに選曲。今、本当に聴いて欲しい本格的なピアノトリオです。

第149回
5/28 金
一般4,000円(友の会会員3,600円)　学生(25歳以下／限定数)1,000円

漆原啓子率いる新設の弦楽四重奏団 精鋭たちが奏でるベートーヴェン
ひばり弦楽四重奏団

■出演　漆原啓子、漆原朝子(以上ヴァイオリン)、大島亮(ヴィオラ)、辻本玲(チェロ)
■曲目　ベートーヴェン:弦楽四重奏曲 第5番 イ長調 op.18-5
バルトーク:弦楽四重奏曲 第3番 Sz.85 BB93
ベートーヴェン:弦楽四重奏曲 第15番 イ短調 op.132　(予定)

漆原啓子が中心となって、2018年に結成した常設の弦楽四重奏団。メンバーには漆原朝子、大島亮、そして辻本玲と第一線で活躍する室内楽奏者をそろえ、ベートーヴェンの弦楽四重奏曲全曲演奏を活動の主軸とした5年に及ぶ長期プロジェクトを開始するなど、意欲的に活動の場を広げています。今回はベートーヴェンの初期と後期から。そしてベートーヴェン以降、最高の業績と讃えられるバルトークを選曲。それぞれ個々のバックグラウンドを持つ4人の個性光る彼らの四重奏をご堪能ください。

第150回
7/2 金
一般4,000円(友の会会員3,600円)　学生(25歳以下／限定数)1,000円

ウィーン・フィル首席が奏でる華やかな木管の調べ
ソフィー・デルヴォー(Fg)&ダニエル・オッテンザマー(Cl)

■出演　ソフィー・デルヴォー(ファゴット)、ダニエル・オッテンザマー(クラリネット)、クリストフ・トラクスラー(ピアノ)
■曲目　ベートーヴェン:ピアノ三重奏曲 第4番 変ロ長調「街の歌」op.11
ブーランク:クラリネットとピアノのためのソナタ FP184
メンデルスゾーン:演奏会用小品 ヘ短調 op.113
グリンカ:ピアノ三重奏曲 ニ短調「悲愴」
サン=サーンス:バスーンソナタ ト長調 op.168
メンデルスゾーン:演奏会用小品 ニ短調 op.114　ほか(予定)

ウィーン・フィル首席クラリネット奏者ダニエル・オッテンザマーと、同じく首席でザ・フェニックスホールには2度目の登場となるファゴット奏者ソフィー・デルヴォーの木管2人によるスペシャルコンサート。ピアノには2人との共演も多く伴奏や室内楽分野でも活躍するクリストフ・トラクスラーを迎えてお届けします。それぞれのソロはもちろん、チェロパートをファゴットが担いベートーヴェンやメンデルスゾーン等の室内楽も披露します。

ホール主催・共催・協賛・協力公演チケットのお申込み方法

06-6363-7999

土・日・祝日を除く平日の10:00〜17:00
1/16(土)はティータイム発売日のため特別営業

■ザ・フェニックスホール友の会優先予約
・ザ・フェニックスホール友の会会員様の優先予約日です(電話予約のみ)。
・主催公演1公演につき会員お1人様2枚まで1割引でお求めいただけます。チケット購入の際、枚数制限はありませんが、3枚目以降は一般価格となります。
・友の会への入会をご希望の方は、チケットのお申込み時にお電話でお申しつけください。同時に優先予約をお受けすることができます。その際、年会費1,000円が別途必要となります。

■E-PHX(イー・フェニックス)優先予約
・E-PHX(イー・フェニックス)にご登録の方の優先予約日です(電話予約のみ)。
・チケット購入の際、枚数制限、割引はありません。
・事前にザ・フェニックスホールホームページ、ホール会員のページからご登録ください。お電話でのご登録はできません。

■一般発売
・一般発売日は、電話予約のみのお申込みとなります。
・チケット購入の際、枚数制限、割引はありません。

https://phoenixhall.jp/

チケットセンターのページからお申込みください

■インターネット予約 (主催公演のみ)
・ザ・フェニックスホールホームページ、チケットセンターのページからお申込みください。
・チケット予約フォームに記載のない公演につきましてはおそれ入りますがお電話でお問合せください。
・ホームページ更新の都合により、完売表示のない公演でもお申込み時には完売となっていることもございます。どうぞご了承ください。
・学生券のインターネットによるご予約は受付いたしておりません。
・チケットご予約フォーム送信後、営業日3日以内に座席の有無、座席番号、入金方法につきまして確認メールをお送りいたします。

来店窓口臨時休業継続のお知らせ

新型コロナウイルス感染拡大防止のため、引き続きビル8階のチケットセンター来店窓口を臨時休業いたしております。
お客様には大変ご不便をおかけいたしますが、何とぞご了承くださいますようお願い申し上げます。

チケットお申込み後のお受け渡し方法

電話予約後に郵便振込をしていただき、入金確認後にチケットをご郵送させていただきます。皆様のお手元にチケットが届きますのはご入金をいただいてから約10日後となります。その際、振込手数料はお客様にてご負担ください。尚、郵送は簡易書留(一律420円)のみとさせていただきます。

振込口座　00940-0-95351　　加入者名　ザ・フェニックスホール

第151回
10/1 金

一般3,000円(友の会会員2,700円)　学生(25歳以下/限定数)1,000円

チェロの俊英、渾身のラフマニノフ!

伊藤悠貴 チェロリサイタル

■出演　伊藤悠貴(チェロ)、渡邊智道(ピアノ)

■曲目　ラフマニノフ:伊藤悠貴編による「6つの祷り」
夜のしじま op.4-3、マヒワの死に寄せて op.21-8、
弔いの鉄の鐘 "永遠の眠りがもたらす心の平安"(合唱交響曲「鐘」op.35より)、
ここは素晴らしい op.21-7、夢 op.38-5、神の栄光(遺作)
ラフマニノフ:チェロソナタ ト短調 op.19　ほか(予定)

©Charlotte Fielding

伊藤悠貴は15歳で渡英し、王立音楽大学在学中にブラームス国際コンクール、およびイギリス最高峰として知られるウィンザー祝祭国際弦楽コンクールで第1位を受賞した期待のチェリスト。プログラムは彼自身が最も得意とするオール・ラフマニノフです。伊藤は、演奏家としてだけでなく、指揮者、作編曲家、文筆家などの活動も目覚ましいマルチな才能の持ち主です。今回のプログラムにも彼自身が編曲した曲が多数含まれており、新たなラフマニノフの側面を魅せて/聴かせてくれるに違いありません。

第152回
11/12 金

一般3,500円(友の会会員3,150円)　学生(25歳以下/限定数)1,000円

ベテランの新たなる挑戦。ベートーヴェン四手連弾の極致

寺田悦子&渡邉規久雄 デュオリサイタル

■出演　寺田悦子、渡邉規久雄(以上ピアノ)

■曲目　ベートーヴェン:ゲーテの詩「君を思う」による四手のための6つの変奏曲 WoO.74
四手のための「大フーガ」変ロ長調 op.134
ブラームス:ハンガリー舞曲集 WoO.1より 第1番〜第6番　ほか(予定)

©武藤敏

2019年にデビュー50周年を迎えた寺田悦子と、当ホールの音楽アドヴァイザーを務める渡邉規久雄によるピアノ・デュオコンサート。今回は全て1台のピアノを2人で演奏する四手連弾曲でまとめられています。メインで演奏されるのは、ベートーヴェン晩年の傑作弦楽四重奏曲「大フーガ」。ベートーヴェン自身が四手連弾用に編曲した楽譜を使用し演奏します。また、出版当初(1869年)から大人気だったブラームスのハンガリー舞曲集は、現在はオーケストラ版が有名ですが、実は四手連弾版が最初に発表されました。誰もが知っている有名な第5番も演奏予定です。

第153回
11/26 金

一般4,000円(友の会会員3,600円)　学生(25歳以下/限定数)1,000円

ウィーン・フィル期待の新星、日本初リサイタル!

フョードル・ルディン ヴァイオリンリサイタル

■出演　フョードル・ルディン(ヴァイオリン)、未定(ピアノ)

■曲目　ベートーヴェン:ヴァイオリンソナタ 第5番 ヘ長調「春」op.24
モーツァルト:ロンド ハ長調 K.373
シューベルト:華麗なるロンド ロ短調 op.70 D895
エルンスト:シューベルトの「魔王」による大奇想曲 op.26
ヤン・ヴァーツラフ・ヴォジーシェク:ヴァイオリンソナタ ト長調 op.5　(予定)

©Neda Navaee

2019年ウィーン国立歌劇場およびウィーン・フィルのコンサートマスターに就任したフョードル・ルディンは、2018年パガニーニ国際ヴァイオリン・コンクールで第2位、2014年エネスク国際ヴァイオリン・コンクールで第2位に輝いた実力派ヴァイオリニスト。その端正な演奏には、ウィーン・フィルの新しい風を感じます。ウィーンで活躍した作曲家にこだわったプログラムもとてもユニークで、このリサイタルにかける意気込みを感じます。メインで演奏予定のヤン・ヴァーツラフ・ヴォジーシェクはチェコ出身の作曲家ですが、ベートーヴェンやシューベルトと同時代にウィーンで活躍した作曲家です。滅多に演奏されない曲ですが、隠れた名曲です。

第154回
2022年
1/28 金

一般3,500円(友の会会員3,150円)　学生(25歳以下/限定数)1,000円

リストのスペシャリスト、大阪初リサイタル!

マリアム・バタシヴィリ ピアノリサイタル

■出演　マリアム・バタシヴィリ(ピアノ)

■曲目　ワーグナー(リスト編):イゾルデの愛の死 S.447 R.280
シューベルト(リスト編):12の歌より 第4曲「魔王」S.558 R.243
リスト:詩的で宗教的な調べ S.173 R.14より 第3番「孤独のなかの神の祝福」
ほか(予定)

©Attila Kleb

1993年ジョージア(旧グルジア)生れ。2014年にリスト国際ピアノコンクールで優勝し、2015年にアルトゥーロ・ベネデッティ・ミケランジェリ賞を受賞、2017/2018シーズンのBBC New Generation Artistsに選出された。今、欧州全域で注目されている若手ピアニストの一人。今回は、リストのピアノ作品を中心にリストスペシャリストであるマリアム・バタシヴィリの「リスト愛」をご披露いたします。リストの超絶技巧で華やかで派手な作品に加え、あまり演奏会で出会う機会のない宗教的で内省的な側面を象徴する傑作「詩的で宗教的な調べ」第3番「孤独の中の神の祝福」も演奏いたします。彼女の純粋で光り輝き、透き通るようなピアノをご堪能下さい。マリアム・バタシヴィリの大阪初リサイタルお見逃しなく!!

友の会優先予約 1月16日(土)10:00　E-PHX優先予約 1月18日(月)10:00　一般発売 1月19日(火)10:00

■注目アーティストシリーズ75

2021年3月20日(土・祝)

15:00開演　指定席
一般¥3,500(友の会会員¥3,150)
学生(25歳以下)¥1,000(限定数)

出演　郷古廉(ヴァイオリン)
　　加藤洋之(ピアノ)

令和元年度文化庁芸術祭【音楽部門】大賞受賞！白熱の名演を再び！
伊東信宏 企画・構成

土と装飾：郷古廉＆加藤洋之 デュオリサイタル

曲目　イザイ：冬の歌　(詩曲 第3番) ロ短調 op.15
　　エネスク：ヴァイオリンソナタ イ短調「トルソー」
　　ヴラディゲロフ：ブルガリアン・ラプソディ「ヴァルダール」op.16
　　ヴラディゲロフ："うた"(「ブルガリア組曲」op.21 より)
　　エネスク：ヴァイオリンソナタ 第3番「ルーマニア民俗音楽の性格で」op.25
　　(予定)

©Hisao Suzuki

「土と装飾：郷古廉＆加藤洋之 デュオリサイタル」を楽しむための特別講座

本公演の企画者、大阪大学教授・伊東信宏先生による特別講座を開催します！企画の成り立ちや楽曲の解説、聴きどころなど、コンサートの魅力について資料を交えて楽しくわかりやすいお話でお楽しみいただきます。プログラムの予習にもぴったりです。郷古さん、加藤さんにまつわる小話も登場するかも！？コンサートをより一層楽しむための特別講座、ぜひご参加ください！

2021年2月20日(土) 15:00開始(14:30開場)
会場　あいおいニッセイ同和損保フェニックスタワー16階大会議室
　　(ホールと同じビルの16階です)
入場料　無料　(要予約・先着50名)※整理券が必要です。必ずご予約ください。
お申込み　ザ・フェニックスホールチケットセンター　06-6363-7999
受付開始　2021年1月19日(火)【友の会優先予約 1月16日(土)】

■注目アーティストシリーズ76

2021年6月12日(土)

15:00開演　指定席
一般¥4,500(友の会会員¥4,050)
学生(25歳以下)¥1,500(限定数)

出演　フォルクハルト・シュトイデ
　　(ヴァイオリン)
　　三輪郁(ピアノ)

ウィーン・フィル・コンサートマスターが奏でる不朽の旋律

フォルクハルト・シュトイデ ヴァイオリンリサイタル

曲目　グリーグ：ヴァイオリンソナタ 第1番 ヘ長調 op.8
　　ジョン・ウィリアムズ：『シンドラーのリスト』から3つの小品
　　ジョン・ウィリアムズ：『サブリナ』のテーマ
　　クルト・ヴァイル(シュテファン・フレンケル編)：『三文オペラ』から7つの小品
　　ガーシュウィン(ヤッシャ・ハイフェッツ編)：『ポーギーとベス』から「サマータイム」
　　ドビュッシー：ヴァイオリンソナタ
　　クライスラー：ウィーン風狂詩的幻想曲　(予定)

©広島交響楽協会　©小島 亀生

1994年弱冠23歳でウィーン国立歌劇場管弦楽団のコンサートマスターに就任。2000年にはウィーン・フィルハーモニー管弦楽団の第1コンサートマスターに就任し、現在のウィーン・フィルの屋台骨として、まさに八面六臂の活躍をみせるフォルクハルト・シュトイデ。またオーケストラだけでなく、ソロにおいても繊細で歌心に溢れた演奏を聴かせ、多くのファンを魅了しています。そんなシュトイデが今回驚きのプログラムを届けてくれました。それは、なんといっても映画音楽の巨匠、ジョン・ウィリアムズ作品を取り上げていることです。2020年、ウィーン・フィルが本人を指揮者に招いて演奏し、世界中から喝采を贈られ、ライブCDが大ヒットしたのは記憶に新しいことです。その熱狂を再現するかのような選曲に期待は膨らみます。また、ポピュラー音楽的アプローチだけでなく、どっしりとしたソナタも2曲用意されており、クラシック音楽からオペラ、そして映画音楽まで幅広い音楽をお楽しみいただけると思います。ピアニストはウィーンに留学経験があり、ウィーン・フィル奏者から全幅の信頼を寄せられている三輪郁。シュトイデとの絶妙なアンサンブルにご期待ください。

■フェニックス・エヴォリューション・シリーズ93　主催　フィリー企画

2021年6月25日(金)

19:00開演　指定席
一般前売¥2,500(友の会会員¥2,250)
一般当日¥3,000(友の会会員¥2,700)
学生前売¥1,500　学生当日¥2,000
※学生券は大学生以下対象。

出演　中恵菜(ヴィオラ)
　　北端祥人(ピアノ)

今をときめく若手ヴィオリスト、
中恵菜が届けるオール・ヒンデミット・プログラム

中恵菜 ヴィオラリサイタル ～ヒンデミットに想いを寄せて～

※2020年8月5日(水)の振替公演

曲目　ヒンデミット：瞑想曲(1938)
　　ヴィオラソナタ op.25-4(1922)
　　ヴィオラソナタ(1939)
　　無伴奏ヴィオラソナタ op.25-1(1922)
　　ヴィオラソナタ op.11-4(1919)

©Uwe Neumann

あいおいニッセイ同和損保ザ・フェニックスホール協賛公演のご案内

ザ・フェニックスホール友の会会員の方には割引特典があります。
当日券をお買い求めの際は会員証をご提示ください。

協賛公演 辻本玲 チェロリサイタル

※2020年5月27日(水)の振替公演

主催　フィリー企画

1/19(火)発売

2021年3月23日(火)　19:00開演　指定席
一般前売¥3,000(友の会会員¥2,700)　一般当日¥3,500(友の会会員¥3,150)　学生前売¥1,500　学生当日¥2,000

出演　辻本玲(チェロ)、大伏啓太(ピアノ)

曲目　ベートーヴェン:魔笛の主題による12の変奏曲 ヘ長調 op.66
グリーグ:チェロソナタ イ短調 op.36
ブリテン:チェロソナタ ハ長調 op.65
カサド: 親愛なる言葉
ピアソラ:ル・グラン・タンゴ

今回のリサイタルは、ノルウェーで生まれ育ったエドヴァルト・グリーグが40歳の時(1883年)に作曲したチェロソナタを中心に、今年生誕100年を迎えるアストル・ピアソラの名曲「グランタンゴ」を名器ストラディヴァリウスで情熱的に歌い上げます。

©KING RECORDS

協賛公演 東京バロックプレイヤーズ 大阪公演

※2020年5月18日(月)の振替公演

主催　東京バロックプレイヤーズ・株式会社目の眼

発売中

2021年3月25日(木) 19:00開演 指定席 一般前売・当日¥4,000(友の会会員¥3,600) 学生前売・当日¥1,000

出演　上野星矢(フルート)、對馬佳祐(ヴァイオリン)、
中田美穂(ヴィオラ)、島根朋史(チェロ)、
桑生美千佳(チェンバロ)

曲目　ヤーニチュ:
室内ソナタ ト短調 "おお、血と涙にまみれた御頭よ"
フリードリヒ大王:フルートソナタ ロ短調
J.S.バッハ:音楽の捧げものBWV1079より トリオソナタ
テレマン:ターフェルムジーク(食卓の音楽) 第2集
第2曲「四重奏曲」ニ短調　ほか

東京バロックプレイヤーズはフルート奏者・上野星矢が発起人となり2016年に誕生しました。国内外で活躍めざましい気鋭の演奏家たちが中心メンバーとなり、これまでトッパンホール、紀尾井ホールなどで定期的にコンサートを行い、その自由闊達な演奏で注目を集めています。即興性溢れるバロック音楽は、ヨーロッパの人々がそれ以前の秩序を重んじることから、より感性を求めるようになったことで開花しました。厳粛で緻密な音の中に、聴き手を惹き込む遊び心があります。今回は個々のプレイヤーの技量がよりクローズアップされていく18世紀ドイツの音楽をお楽しみいただきます。

協賛公演 ベルリン・フィルのメンバーによる室内楽

主催　東京・春・音楽祭実行委員会
共催　コジマ・コンサートマネジメント

1/25(月)発売

2021年4月15日(木)　19:00開演　指定席　一般前売・当日¥7,000(友の会会員¥6,300)　※友の会割引は前売のみ

出演　樫本大進(ヴァイオリン)
オラフ・マニンガー(チェロ)
オハッド・ベン=アリ(ピアノ)

曲目　ベートーヴェン:ピアノ三重奏曲 第6番 変ホ長調 op.70-2
ブラームス:ピアノ三重奏曲 第3番 ハ短調 op.101
シューベルト:ピアノ三重奏曲 第2番
変ホ長調 op.100 D929

ベルリン・フィルのメンバーによる室内楽。2021年春はベートーヴェン、ブラームス、シューベルトを是非お聴き逃しなく!!

©Kaito Osada ©Jim Rakete

協賛公演 福井敬プロデュースオペラ プッチーニ:歌劇「ラ・ボエーム」(ハイライト)

※2020年6月27日(土)の振替公演

主催　福井敬.net

発売中

2021年4月18日(日)　14:00開演　指定席　一般前売・当日¥5,500(友の会会員¥5,000)

出演　福井敬(テノール)、黒田博(バリトン)、
上田純子、高橋広奈(以上ソプラノ)、谷池重紬子(ピアノ)

曲目　プッチーニ:歌劇「ラ・ボエーム」ハイライト　ほか

＊福井敬ネットYouTubeチャンネルにて、「ラ・ボエーム」東京公演を配信中!

19世紀パリを舞台に、詩人ロドルフォとお針子ミミの純愛、そして明日の成功を夢見る若き芸術家たちの貧しくも自由な生活を描いた青春オペラ。プッチーニの甘美な旋律が、ロマンティックな物語を紡ぎだします。名アリアの数々を福井敬と素敵な共演者でお愉しみください。

協賛公演 澤クワルテット デビュー30周年記念 ベートーヴェン中期・後期弦楽四重奏曲シリーズ<全4回>

※2020年からの振替公演

主催　モーツアルト・サロン

1/12(火)発売

<第1回>2021年5月5日(水・祝)　<第2回>7月3日(土)　<第3回>10月10日(日)　<第4回>12月19日(日)
14:00開演　自由席　一般前売・当日¥4,500(友の会会員¥4,000)　4回連続券¥15,000　学生¥3,000

出演　澤クワルテット/澤和樹、大関博明(以上ヴァイオリン)、市坪俊彦(ヴィオラ)、林俊昭(チェロ)

曲目　<第1回>ベートーヴェン:弦楽四重奏曲 第11番 ヘ短調「セリオーソ」op.95、第16番 ヘ長調 op.135
第9番 ハ長調「ラズモフスキー第3番」op.59-3
<第2回>ベートーヴェン:弦楽四重奏曲 第8番 ホ短調「ラズモフスキー 第2番」op.59-2、
第10番 変ホ長調「ハープ」op.74、第12番 変ホ長調 op.127
<第3回>ベートーヴェン:弦楽四重奏曲 第7番 ヘ長調「ラズモフスキー 第1番」op.59-1
第14番 嬰ハ短調 op.131
<第4回>ベートーヴェン:弦楽四重奏曲 第15番 イ短調 op.132、第13番 変ロ長調 op.130

©武藤章

1990年の結成以来、1人のメンバー交代もなく30年。熟成と進化を続ける澤クワルテットが生誕250年を迎えるベートーヴェンの中期・後期の弦楽四重奏曲に満を持して挑む4回シリーズ。

アストル・ピアソラについて

— 三浦一馬

受信ボックスへ届いた執筆依頼メールに目を通しながら、思わず深く頭を抱え込んでしまった。「ピアソラについて」—これはもしかすると僕にとって、ある意味もっとも難しいテーマではなかろうか…。確かに、アストル・ピアソラは紛れもなく僕が心から敬愛し、演奏の上でも突き詰めてきた作曲家だという自負はある。だが裏を返せば、今まで濃密すぎるまでに対峙してきたからこそ、ピアソラに関して語り尽くせるということはないし、それ以前に語るという行為それ自体が畏れ多いことなのではないか…。しかし改めて思えば、ピアソラの音楽と出逢ってから既に20年以上の歳月が流れ、ささやかながらとは言え、僕の人生の殆どがピアソラの音楽と共にあったと言っても良いはずだ。まずは何より、僕にとって偉大な存在であるピアソラに「最大の敬意を表しつつ」と前置きをし、その出逢いから書き記してみたいと思う。

いま振り返っても「運命」だったという気がしてならないのだが、事の起こりは小学生の時に偶然見ていたTVの音楽番組。特に見たいものもなく、ただぐるぐるとチャンネルを回していただけなのだが、ある映像を目にした瞬間、僕は思わず身体を硬直させたかの如く画面へ釘付けになってしまった。それはまるで古い写真機をも思わせる黒い小箱が伸縮を繰り返しながら、人生そのものを語るかのように、悲哀に満ちたメロディを奏でる姿。そして、その小箱「バンドネオン」を力強く操っていた人物こそアストル・ピアソラその人であり、この時僕は、子供ながらに漠然と憧れていた「大人の世界」というものを、初めて具体的なものとして目の前に示されたような気さえした。心を捉えて離さない、この不思議なまでの求心力に心酔し、僕はいつしかピアソラの世界へとのめり込んでいくことになるのだ。

それからというもの、あらゆる手を尽くしてはピアソラの録音をかき集め、暇さえあればその演奏を聴き漁るようになった。当時はまだインターネットを使ったところで今日ほどの収穫を得られた訳ではなく、ディスクを探すといえば地道にCDショップを回ったり、図書館の所蔵リストを片っ端から調べ尽くしたりする他なかった。骨の折れる作業ではあったけれど、それでも次々と心揺さぶる名演に出会えることの方が遙かに嬉しく、枕元にラジカセとCDの山を積み上げては、まるで禁断症状を起こしたかの如く、毎晩のようにピアソラが描き出す物語を貪っていった。（ところでこの状況、今に至っても尚あまり変わってはいないようだ。もう数え切れないほど弾き続けているのに…と自分でも呆れるが、くたくたになって公演を終え、家路へ車を走らせる時でさえBGMはピアソラであることが多い…。）とにもかくにも、これ程までに「血」が騒ぎ、「本能」にまで訴えかけてくる音楽、聴衆すべてを虜にし、「聴かずにはいられない」と感じさせるところこそ、ピアソラ最大の魅力であり、醍醐味なのではないだろうか。

2021年は、アストル・ピアソラ生誕100年という大きな節目を迎える。今年はベートーヴェン・イヤーとして賑わった音楽業界にも、来年にはきっと「第2次ピアソラ・ブーム」とでも言うべき一大ムーヴメントが巻き起こることだろう。生涯に渡って新たな音楽を追究し続けたその精神を受け継ぎながら、更にはその先の未来を見据えた「新しいピアソラ像」を、僕自身も全身全霊で模索して行きたいと思う。きっとこれからだって、僕とピアソラとの間には、そう簡単には切れそうもない「宿命」のようなものがあるはずだから…。

三浦一馬(みうら・かずま)／バンドネオン奏者
10歳よりバンドネオンを始め、小松亮太に師事。2006年別府アルゲリッチ音楽祭にてバンドネオン界の最高峰ネストル・マルコーニ氏と出会い、その後自作CDの売上で渡航費を捻出してアルゼンチンに渡り、現在に至るまで氏に師事。08年国際ピアソラ・コンクールで日本人初、史上最年少で準優勝。14年度出光音楽賞を受賞。17年自らが率いる室内オーケストラ「東京グランド・ソロイスツ」を結成。18年最新盤「Libertango」のリリース記念を兼ねた全国11か所を回るキンテート・ツアーを成功に導く。現在、若手実力派バンドネオン奏者として各方面から注目されている。

©井村重人

あいおいニッセイ同和損害保険株式会社は、あいおいニッセイ同和損保ザ・フェニックスホールをフェニックスタワー内に設けています。芸術・文化の発信基地として、関西の芸術文化発展に寄与しています。

〒530-0047 大阪市北区西天満4-15-10 あいおいニッセイ同和損保フェニックスタワー8F TEL 06-6363-0211
Copyright(C) 2011 The Phoenix Hall All rights reserved. 本誌に掲載された記事、写真、イラスト等の無断掲載を禁じます。

発行年月　2021年1月
発　　行　あいおいニッセイ同和損保ザ・フェニックスホール
編　　集　諸藤修一
デザイン　松井桂三有限会社